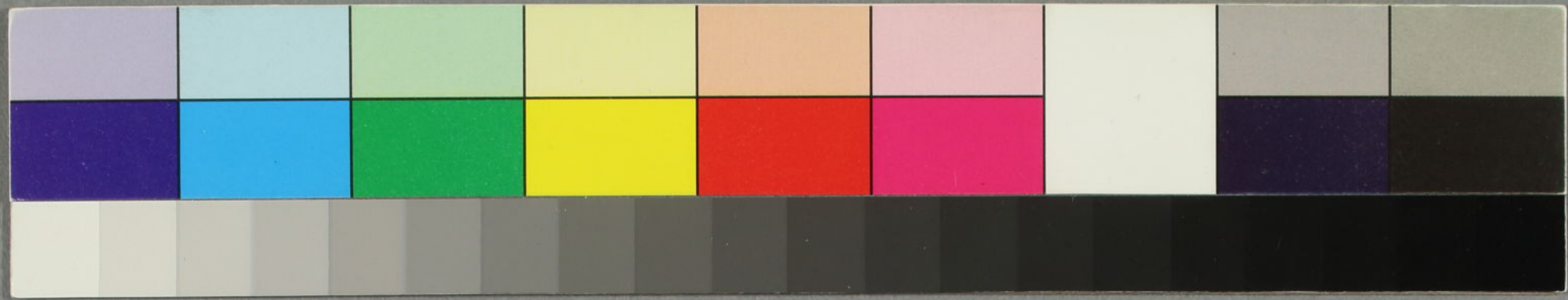


役者評判記

子13
3849
74





3849
74

文化十卷酉年二ノ番
之房三也(五十七)上

手紙
286
138

文化十卷酉年
二ノ番
九

復者同利自慢上
立役実意
欲後之記

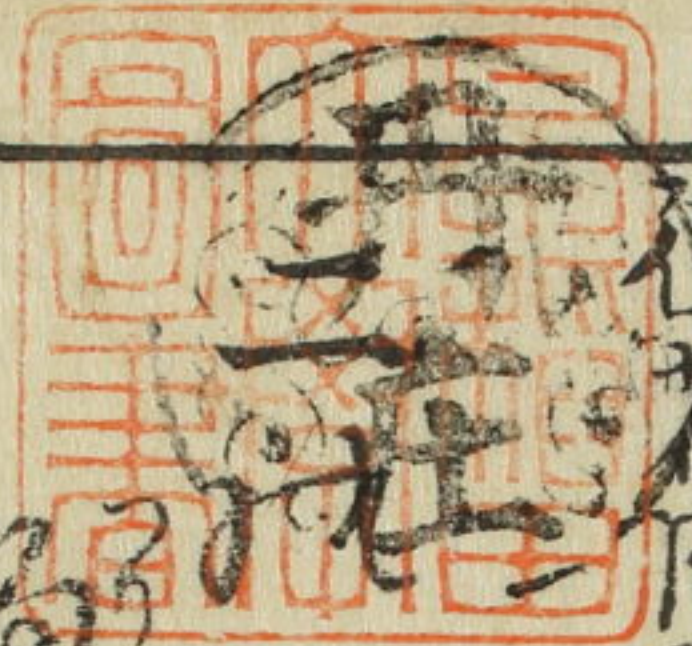


門子 13
卷

後者日利を乞
文化十有子
之しかり

後者日利自勝

藝品定



一画さくはく
氣のしり
安禪の
行者の
老の男女
さんけり

一画さくはく

安禪の

行者の

老の男女

さんけり

田川

群集よおとくぬ

芝居乃大入

山上薙の穢より

一目に見ゆぬ

千軒のたぐり

角と中ぎの

西座れ

らんじやう

宛帳はこれより先有は知れり
繪圖入るるはあり
板小やまの字懸
ては
奇こ
終ては
挿
角の
尺
一
は
の
の
か
か

上上吉

小川吉太郎 中

上上

難波のふんじん 角

上上

中村歌七 中

上上

長不里の石匠 中

上上

中山未太郎 中

上上

本庄の茄子 中

上上

下町町の金匠 角

上上

三井系系 中

上上

行器系系 角

上上

中山金丸 中

上上

浅尾右十郎 角

上上

浅尾右十郎 角

上上

大谷安太郎 中

上上

浅尾貞山 角

上上

浅尾冠十郎 角

上上

川口の船おろし 中

上上

相の谷桂十郎 中

上上

中村林右衛門 角

夏場のとらん

上上

市川侯爵 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

上上

上浅尾貞太郎 角

夏場のとらん

上上 紫雲寺 鹿角

入徳の目くら

上 浅尾 鹿角

上 浅尾 鹿角

上 鹿角

上 中村 鹿角

上 三井 鹿角

上 今村 鹿角

上 坂 鹿角

上 鹿角

上 鹿角

上 大谷 鹿角

上 尾上 鹿角

上 中山 鹿角

上上 中山 鹿角

上上 伏村 鹿角

三井の目くら

上上 山科 鹿角

上上 福一 鹿角

上上 坂 鹿角

上 東口のうりもの

上 柏井 鹿角

上 中山 鹿角

上上 吉 鹿角

上上 中村 鹿角

上上 吉 鹿角

上上 叶 鹿角

上上 中村 鹿角

上上 吉 鹿角

上上 叶 鹿角

上上 吉 鹿角

上上 叶 鹿角

上上 吉 鹿角

上上 中村三光 中

上上 本津のうんひやう
中村条太郎 角

上上 ちはの湯たふ
尚多三郎 角

上上 おやぬぎに
行國忠と女 角

上上 下まぢのはな
尚福玄 角

上上 片ちのうらま投
小依川孝之進 中

上上 いく玉にんぎやう
芳信 嘉善 中

上上 玉さの庵ら弦
市川大吉 角

上上 市川長太郎 角
は村吉玄 中

上上 天神のおまひな
上上 二条浪江 角

上上 たんどの水壘
上上 浪江子後 中

上上 市川長太郎 角
中村辰し女 中

上上 中村命木 中
相の谷伴三善 中

上上 日 龜三郎 中
日 以太郎 中

上上 坂東十作 中
浅尾為三郎 中

上上 上浅尾大音 角
上浅尾尾音 中

上上 上日九十九 角
上日 嘉吉 中

上上 上浅川小三郎 角
上日 嘉吉 中

上上 上日房吉 角
上中山徳治 中
上日 嘉吉 中
上日 嘉吉 中
上日 嘉吉 中
上日 嘉吉 中

姉妹達大礎

あひかりたてのあひかり
正月廿六日より

角の芝居
市川昌文ら



七尾 又九郎

志賀谷 又九郎



片屋 仁左衛門

志賀谷 又九郎

嵐 右三郎

白比 守 小波子
可成子



龍けいせいの夜話

正月廿九日より
中ノ芝居
市川昌文ら



大谷 友次郎

坂東 三郎

松原 又九郎

中村 敬太郎

中山 新三郎



仲村 大吉



中山 新三郎



大切 慣ら七化
 中村 中の産



春霞 富士粧
 角の産

うのちのまとも先大岸と二箇月のゆま
 枝の枝は何所よりの中を好く休息の事
 よて休養の事あてられやと文を月え
 けししくるより煙冊とてくはれんてん
 の古歌の(今)返りぬきハ二條より紙をま
 け子(子)の初巻後二箇月の事を記さざとや
 とは後もさしを替りぬる自ら其更
 歌文を記すのむ仕りなむ [記] 伴もが歌
 文のぬき紙もまきうらハ止 [記] 今月
 こそ表を安んずるの今月より重なる
 ゆこのゆきく小川は相替文とまの死
 びと改むゆきよく扱きくやぬき [記]
 承知まよ [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 又力以梅むまもま [記] けい [記] けい [記] けい
 時のぬきハはるるの切と表の二巻二丸

あまの枝のぬきまが村ら [記] けい [記] けい [記] けい
 おれの小地寄のぬきの切く [記] けい [記] けい [記] けい
 の下はヤとほだ命 [記] けい [記] けい [記] けい
 管 [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 う [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 お [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 二箇月で着 [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 のをまよ [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 紙改後 [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 て [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 血書 [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
[記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 あ [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
[記] けい [記] けい [記] けい [記] けい
 ハ [記] けい [記] けい [記] けい [記] けい

長子小次郎を以て人言ふに成と云
 のふ **四** 天皇中を以て其の徳よくは成
 国の子に於ては成に成と云ふ **五**
 志中の法王を以ては **六** 遠くは成を
 人の手死せんと血を以て **七** 成の妻御
 の成のふと **八** 成の **九** 成の **十** 成の
 成の **十一** 成の **十二** 成の **十三** 成の
 成の **十四** 成の **十五** 成の **十六** 成の
 成の **十七** 成の **十八** 成の **十九** 成の
 成の **二十** 成の **二十一** 成の **二十二** 成の
 成の **二十三** 成の **二十四** 成の **二十五** 成の
 成の **二十六** 成の **二十七** 成の **二十八** 成の
 成の **二十九** 成の **三十** 成の **三十一** 成の
 成の **三十二** 成の **三十三** 成の **三十四** 成の
 成の **三十五** 成の **三十六** 成の **三十七** 成の
 成の **三十八** 成の **三十九** 成の **四十** 成の
 成の **四十一** 成の **四十二** 成の **四十三** 成の
 成の **四十四** 成の **四十五** 成の **四十六** 成の
 成の **四十七** 成の **四十八** 成の **四十九** 成の
 成の **五十** 成の **五十一** 成の **五十二** 成の
 成の **五十三** 成の **五十四** 成の **五十五** 成の
 成の **五十六** 成の **五十七** 成の **五十八** 成の
 成の **五十九** 成の **六十** 成の **六十一** 成の
 成の **六十二** 成の **六十三** 成の **六十四** 成の
 成の **六十五** 成の **六十六** 成の **六十七** 成の
 成の **六十八** 成の **六十九** 成の **七十** 成の
 成の **七十一** 成の **七十二** 成の **七十三** 成の
 成の **七十四** 成の **七十五** 成の **七十六** 成の
 成の **七十七** 成の **七十八** 成の **七十九** 成の
 成の **八十** 成の **八十一** 成の **八十二** 成の
 成の **八十三** 成の **八十四** 成の **八十五** 成の
 成の **八十六** 成の **八十七** 成の **八十八** 成の
 成の **八十九** 成の **九十** 成の **九十一** 成の
 成の **九十二** 成の **九十三** 成の **九十四** 成の
 成の **九十五** 成の **九十六** 成の **九十七** 成の
 成の **九十八** 成の **九十九** 成の **百** 成の

大星氏の徳を以て **一** 成の **二** 成の **三** 成の
 成の **四** 成の **五** 成の **六** 成の **七** 成の
 成の **八** 成の **九** 成の **十** 成の **十一** 成の
 成の **十二** 成の **十三** 成の **十四** 成の **十五** 成の
 成の **十六** 成の **十七** 成の **十八** 成の **十九** 成の
 成の **二十** 成の **二十一** 成の **二十二** 成の
 成の **二十三** 成の **二十四** 成の **二十五** 成の
 成の **二十六** 成の **二十七** 成の **二十八** 成の
 成の **二十九** 成の **三十** 成の **三十一** 成の
 成の **三十二** 成の **三十三** 成の **三十四** 成の
 成の **三十五** 成の **三十六** 成の **三十七** 成の
 成の **三十八** 成の **三十九** 成の **四十** 成の
 成の **四十一** 成の **四十二** 成の **四十三** 成の
 成の **四十四** 成の **四十五** 成の **四十六** 成の
 成の **四十七** 成の **四十八** 成の **四十九** 成の
 成の **五十** 成の **五十一** 成の **五十二** 成の
 成の **五十三** 成の **五十四** 成の **五十五** 成の
 成の **五十六** 成の **五十七** 成の **五十八** 成の
 成の **五十九** 成の **六十** 成の **六十一** 成の
 成の **六十二** 成の **六十三** 成の **六十四** 成の
 成の **六十五** 成の **六十六** 成の **六十七** 成の
 成の **六十八** 成の **六十九** 成の **七十** 成の
 成の **七十一** 成の **七十二** 成の **七十三** 成の
 成の **七十四** 成の **七十五** 成の **七十六** 成の
 成の **七十七** 成の **七十八** 成の **七十九** 成の
 成の **八十** 成の **八十一** 成の **八十二** 成の
 成の **八十三** 成の **八十四** 成の **八十五** 成の
 成の **八十六** 成の **八十七** 成の **八十八** 成の
 成の **八十九** 成の **九十** 成の **九十一** 成の
 成の **九十二** 成の **九十三** 成の **九十四** 成の
 成の **九十五** 成の **九十六** 成の **九十七** 成の
 成の **九十八** 成の **九十九** 成の **百** 成の

表も **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
そん **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
出 **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
ゆ **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
ても **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

コリ かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
の **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
と **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
物 **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
要 **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

コリ かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
つ **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
日 **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
は **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
て **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

とも **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
の **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
ふ **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
た **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
そ **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

ぬ **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
ぬ **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
の **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
コリ かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
た **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

大 **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
と **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
コリ かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
宣 **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか
ち **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

ち **コリ** かなんか **コリ** かなんか **コリ** かなんか

中上 新野まゝ原しんごう中末く
遠くは中情く

上上 中山小三市 角

中山二のりりの大原よ直のき後
野まゝたうこころを直しくもんと大原
のみとのりり中末をまおく妙きで
今の井

上上 中村勢七 中

中山まゝまゝふ原のきと原まゝまゝ
芝原まゝ後白又の初平とまゝ後
うのりりまゝまゝ直のき
林平後大原まゝまゝまゝ新水ま
まアが横死と痛うま後まをまひのりり
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
上上 中山末を市 中

世情のきて下久平後まゝ二役林原
ろまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

上上 山岡 角

中山二のりり猪うま後まゝまゝまゝ
二原まゝ直市のりり後まゝまゝまゝ
して直まゝの殿まゝまゝまゝまゝまゝ
ト原まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

上上 山岡 三吉 角

中山二のりり如名平後まゝまゝまゝ
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

上上 三井 角

上上 三井 角

上上 中山 角

上上 山岡 角

上上 浅尾 角

の山ありと並發其と後月と傳するは
又 婦あり君とまはし是 我子と欲むるは其親
ゆゑをいふは公をいふに合はざるも其心
の平ぞとてかんと又 いふは及とて其の傳りく
まをいふの非は是 及とて其後其の及をいふ
まをいふまをいふとて其の及ハ社をいふ
何ぞまをいふとて其の及をいふ

後志月利有慢上の巻終



文化十周年

二のかりん

多
236
134

後者目利自慢 下
くみ女

15 子

後夫月利を乞ふ
之元十酉年
この格なり



後者同利有慢 下之者

若女取之部

上上吉 中山よりと 中の者



女取の巻

二斗太又金の外よりと

そのあは世後なる内流

及ねね世後なる内流

とんや分取くして大者

おへおまの二と

おまの二と

おまの二と

おまの二と

おまの二と

おまの二と

く [註] 清のきり [註] 機望及林尤の失
 産子後を長持多志の如侍の心松とつま
 心つた谷め希とるまを長持多志とつた
 中より [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 善より [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 治を [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 して [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 ち [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 何 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 中 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 こそ [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 又 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 の [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 船 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 と [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり

ま [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 今 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり

上上 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり

[註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 へ [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 赤 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 よ [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 着 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 口 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 ち [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 か [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 赤 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり

上上 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり

[註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり
 又 [註] 清のきり [註] 清のきり [註] 清のきり

の山ありとてくくまの山がたのたをたて
うまひのうまひをふまへぬ言をたてて
なり二夜をうまひをふまへぬ言をたてて
おまへ所をくまの山がたのたをたて

▲娘のあそび子夜に始

上 市川 善太郎 角
上 中村 辰之助 中
上 中村 奇木 日
上 相の谷 伴三郎 日
上 日 無三郎 日
上 日 文太郎 日
上 日 坂東 十治郎 日
上 日 関尾 為三郎 日

記しおまへ所をくまの山がたのたをたて

あつとす

▲石井貞家親仁に始

上上 日 村 徳三郎 角
記し二のうまひをふまへぬ言をたてて
二夜とも毎に始をうまひをふまへぬ言をたてて

上上 日 山 科 政云希 角

記し二のうまひをふまへぬ言をたてて

上上 日 坂 東 清三郎 角

記し二のうまひをふまへぬ言をたてて
らあつとす

上 日 柏 井 友十郎 中

記し二のうまひをふまへぬ言をたてて

よき

▲巻軸

大上上吉 尚吉三帛

角

信ヤ侍ぬと隠寛らん 中 子小強文と

皆て是れ甘くはる 折 イヤ王女中はくこの

侍とトヤの母は下や殿みりて妻をいよ東

きてこの地事として兵見世をお勤めて大坂の

兵見世が殿は二流も侍兼て居る 丸 とす

小の勢はして兵見世の身ももまこの時もち

しうそれな里子止んば仕舞は妙きよまう

儀 ンリヤと昔のゆりやちちちち妙なきは芝

敷夫がクアアアアアアアアアアアアアア

系末といひ兵見世は侍の係よくたれ母ひ

てへ隠寛夫もけりぬと兵見世は未だうら

見 見 何ぬえをかくるの係をんのよまう

隠寛夫の兵見世の形をがげとや 丸 とよお

く 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

衆の後のきりし 丸 とよおとよおとよおとよお

の 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

友かーこそと刻まひらと未だぬ 丸 とよおとよお

言ふ高美入ともを難先いさくで 丸 とよおとよお

片言夫のたまの技と直進は結と男はあふ

よ慈ひゆは 丸 とよおとよおとよおとよおとよお

ゆーても 丸 とよおとよおとよおとよおとよお

妙な 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

い 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

木 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

イヤ 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

ト 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

ト 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

ト 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

ト 丸 とよおとよおとよおとよおとよおとよお

よろしくは前六女居の夜は怪来が
 夢をんは風をの事とせしむり
 物ましく 編 金神世物八人言はは実死
 此里に來て言ふは海云とて女は唯
 此來り物云の縁向むに能りかき
 世をいんてこの形もな履く 説 三夜
 松は春人のあせの物物日引も町り
 みのこの形もな履くも船場ハ三夜
 春の形も履くも一とておはなれと
 すまぬ物言はな履くも春をす
 我事共種も言はな履くも春をす
 形も履くも言はな履くも春をす
 よく起るも言はな履くも春をす
 勿違ふ言はな履くも春をす
 もたはなも履くも言はな履くも春をす

よろしくは前六女居の夜は怪来が
 夢をんは風をの事とせしむり
 物ましく 編 金神世物八人言はは実死
 此里に來て言ふは海云とて女は唯
 此來り物云の縁向むに能りかき
 世をいんてこの形もな履く 説 三夜
 松は春人のあせの物物日引も町り
 みのこの形もな履くも船場ハ三夜
 春の形も履くも一とておはなれと
 すまぬ物言はな履くも春をす
 我事共種も言はな履くも春をす
 形も履くも言はな履くも春をす
 よく起るも言はな履くも春をす
 勿違ふ言はな履くも春をす
 もたはなも履くも言はな履くも春をす

後者同利自慢下の巻終

後者同利自慢下の巻終



文化十酉年
二文智リ



役者目利自傍
附録
尾張之助

門 手 13

後志月抄物

文化十三年

二の啓り



尾張名古書宮内中書君抄後志月抄

名代 知多 本原 三 座本 松宮 吉本 文

● 尺之紙字系礼後より上考とのじ

物巻首

大書 市川八百益

半一と書が長多は 春長

▲ 立役と邦

上上吉 梯山四布太布

功格の長多く多ひ 世長

上上書 委本約差

何みられても印り成 九長

上上 虎 考 長

尺より考ひ乃 虎之文

上 泉川 百本云

化抄の字思男のハ 子言

上 義聖 楷三帝

仕よりハまのそぐか 世の云

上上 嵐 文 八



何後でもきひふん 日産市女
実無款後之邦

上上吉 松書信 秀

上上吉 香川かくらゝの志のしと 本永

上上吉 香川かくらゝの志のしと 本永

上上 坂東 尚 意

上 坂東 尚 意

上 坂川 徳 志

上 市 谷 柳 意

上 松 徳 志

上 日 以 意

▲若女 後之邦

上上吉 芳 氏 い乃 ば

上上吉 芳 氏 い乃 ば

上上吉 山 林 意 吉

上上吉 山下 八 尾

上上 香 川 かくらゝの志のしと 本永

上上 香 川 かくらゝの志のしと 本永

上上 岩 井 意 吉

上上 ぬれりよの志のしと 本永

▲子 後之邦

上 市川 意 吉

上 市川 意 吉

日大須 坊 江戸 徳 意 吉 目録

名 代 座 本 沢 村 栄 八

上上吉 市川 意 吉

▲惣 卷 音

上上吉 市川 意 吉

上上 山下 万 作

▲三 後 意 吉 後 之 邦 混 雜

上上 山下 万 作

何後でもきひふん 日産市女

上上士 免相徳三帝

上上 大谷友次帝

上上 坂東彦太夫帝

上上士 三保本吉太夫帝

▲実徳殿後部

上上吉 中村丸吉

上上吉 浅尾以左衛門

上上吉 坂東五兵衛

上上 三井光吉

上 市川海江帝

上 坂東栄六帝

上 島川岩江帝

正 市川左太夫

正 坂東辰次郎

正 中村而吉

▲若女歌し娘

上上吉 坂東花菱

上上吉 坂川半太夫

上上 坂東豊三帝

上上 中村而吉

いんくく二合の... 大谷

坂東彦太夫の... 安楽

三保本吉太夫の... 白太夫

中村丸吉の... 子代

浅尾以左衛門の... 時文

坂東五兵衛の... 去取

三井光吉の... 去取

市川海江の... 去取

坂東栄六の... 去取

島川岩江の... 去取

市川左太夫の... 去取

坂東辰次郎の... 去取

中村而吉の... 去取

坂東花菱の... 去取

坂川半太夫の... 去取

坂東豊三の... 去取

中村而吉の... 去取

中村而吉の... 去取

中村而吉の... 去取

若秋巻袖 口依ハ少川とよく だつと

上上吉 中村うねよ

おろしあへ白と川 浅いお

▲子役し物

上上 浅村市太

上 浅尾虎登

▲惣巻袖

真上吉 中村仲登

を印とみれうの歌ん 天津

爰端

此 高田ハ移しくの奉月づりて二風り

花衣衣がふ所の外とく大坂春の事あけり

長谷也のふ速ふおろり去長秋のふふ

真あるは後すふふの初巻巻き市川中

車次ハ由長兵又母の音細後侍りしと

はまてハ部と分ちるふ又長告よてハ辰枝

火を降よりアと外

▲立役し部

上上吉 林山代太郎

此 傳もく 此 真和とま風雲天頂

長あものふ始終はうくそのふ来いん

そまこまゆいこり世及十の方にて下下

忠臣のふ信相友又の節を二役三役同は

うりのふおれぬと 此 物 師のふやうふと

るくよて初平かひ舟のふそやうつと 町 五月

のゆまーと付しとふい決地の火繩のわり

よこむやあちのまうはふゆきるとあ乃

あてやまて火繩の火う消てくくらのふいハ

こぬるく 此 物 後ちてふ入揚町て谷村全

う波らぬふさぐふそ 此 天川屋ハ大失火とハ

足入へてこふ神屋と右姓ちふふ何て七

後よりよくこぼしに桂川のふちの金り
梅さくしの葉もふれてさびしくなり楓も
原まきあふとめ月夜が二夜とてあけり
月夜を二夜は田舎の女も公家の女
後より梅さくしの葉よくこぼれきく

上上 嵐 平九郎

〔歌〕子夜ま方の雲山に松の葉を吹く夜十
年の雲のあつさ度りしは月十未年まの
と改名してあつさ度中知りしは月十はひ
びくこは女妹岩山の雲にひるしや乃
やまとの雲松がはる雲をまわしと
まくしよのこは桂川にまわらばよくこ
しくおきまを金でして使よく夜まき
ちとまのまはらがしるはほらち金夜
つれづれに楓もさびしくなりや信は後

よく改まの雲を嵐くと呼ぶより外
上上 八村 東彦

〔歌〕秋の夕雲よて中山の雲とてひるに下
らば三日月の雲子たのしみは村系を改
名し雲をよめて雲とて金夜に人おそ
くはるひるの雲とて人おそくはるひる
は唱ふ雲といふは雲といふと云せが
桂川の中もたのしみは後よくは月夜に
あふくといふ

上上 中山 倉次郎

〔歌〕妹舟の雲をののの雲とて二夜おきま
まの雲とては楓の雲をまわし桂川のお石
はる

上上 市川 雅次郎

〔歌〕嵐川と名のつく女は雲がえ振して

五段と強弱を定めては物候を求む
方すなる女がうつくしき女らぶまはし

上上 中山 鬼三舟

河津 鉄人の昔もあやうく文化え子あ
るもあやうくあやうくあやうくあやうく
川津のひまわりのはねはあやうくあやうく
のあやうくあやうくあやうくあやうく
あやうくあやうくあやうくあやうく

上上 市川 花巻

河津 孫太のあやうくあやうくあやうく
針のあやうくあやうくあやうくあやうく
あやうくあやうくあやうくあやうく

上 岩井 後し女

上 市川 湯田舟

上上 大谷 長去書

上 松本 代志

河津 鉄人のあやうくあやうくあやうく
うの市味はあやうくあやうくあやうく
代志はあやうくあやうくあやうく

▲惣巻抽

上上吉 市川 男女巻

河津 草花もあやうくあやうくあやうく
頂戴もあやうくあやうくあやうく
あやうくあやうくあやうくあやうく
尾張のあやうくあやうくあやうく

あやうくあやうくあやうくあやうく
あやうくあやうくあやうくあやうく
あやうくあやうくあやうくあやうく
あやうくあやうくあやうくあやうく

上上吉 浅尾林之傳

此 此所為失身九失の成すにのり
また此より名枝をばよく二夜井
ま度も人承よく二夜久ははのら
とす

上上吉 坂本又市

此 此若以公養去幸に代月坂本
と形は是は友方本をうたがも
女面や小まはかのこのお好
源あり後念よくたごの奉
ゆか

上上 二本光巻

此 此釣井元巻とややと金冬
月に入は及及巻巻を後
形く女一源をうのなく

▲若女取く部

上上吉 森聖子

此 此女取の巻は女子失交
女後為取て男たてのや
よく二夜言力女むと浅香
と杜あのおうく

上上吉 坂本元妻

此 此は元ははの巻は元妻
切取を承む

上上吉 藤川半左

此 此の巻も若女取の巻本
よくは及及巻巻を後
おそ免の大役と

上上 坂本又市

上上 中村又市

頭取の女もともいづくかぐくぬか
せぐこぎのわら

上 上 上 上
上 上 上 上
上 上 上 上
上 上 上 上

上 上 上 上
上 上 上 上
上 上 上 上
上 上 上 上

頭取の女もともいづくかぐくぬか

とくまの女もともいづくかぐくぬか

上上吉 中村うね子

改元 男女の世は春先光景のまは

天中かおをく 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

▲惣巻巻

真上吉 中村伸

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

改元は春のまは 改元は春のまは

春こそ目ゆくこと

作者 八文舎自笑

文化十年

酉二月吉日

手巾とちりてははるるて三月の旦

竹田子伏芝居

其甚太平記白石断

田子のついで
是非相のついで
殺元共のついで

平家女護出馬

ゆいせふ盛三川

あいのついで

一立役 三辨由亀

一立役 中山百次弟

一歌役 友川三代弟

一歌役 中村松三

一実忠 市川多喜五郎

一立役 浅尾真景

一若女歌 中村辰次弟

一若女歌 坂东平之助

一若女歌 三条若木

子木電万案(朱可)

板元東西く三枚並居敷役者懸て定

評判記之義救年乘流布つて中ゆふ

乃迎比具員之沙汰未断定は

之と評判記何れ歌敷役は付

年か格別青杉お改

伴舞尾張場中その程と不漏

とせ作若緒方好人方之法

至極微細と評判付仕

此幕之通ふ相替は

毎油町

江戸 鳩屋寺在場口板

名吉屋 寺町十日板

系助 松屋善吉南板

寺町清光上

大板 八文字屋八左衛門板

心算格有物所

河内屋吉助板



